

米国・カナダ・オーストラリア 3カ国の豆類の生産見通し概況

●米国：2023年12月8日公表ほか USDA Crop Production

10月の農業気象概況（2023年11月9日公表）

10月の月別平均気温は、ニューイングランド地方北部の各地域で平年並みを2.75℃以上上回り、月末になってから大きく変化して米国全体で寒気が広がったものの、10月の気温としてはおおむね非常に温暖であった。米国最南部の諸州（ジョージア州、アラバマ州、ルイジアナ州、ミシシッピ州及びサウスカロライナ州）では、突然の気温低下及び凍結に襲われたが、夏作物はすでに成熟していたか、または既に収穫済みであったため、農業生産への影響は比較的少なかった。例えば、米国全体のダイズの85%の収穫が10月29日までに終了していたし、トウモロコシでは71%の収穫が終了していた。この値は最近5年間の平均であるダイズの78%及びトウモロコシの66%をそれぞれ上回っている。米国中央部及び北西部では、10月末の降雪により良い影響及び悪い影響の両方が生じた。最も雪が多く最も低温に見舞われた主にモンタナ州からノースダコタ州にかけての地域では、一時的に家畜の生産に影響が生じた。しかし、大平原地域北部及び中西部の北部では、雪が発芽時期の冬作コムギを覆うことで水分を与え保護した結果となった。10月29日までに米国全体の冬作コムギの約半分近く（47%）が「良」から「優良」の状態となったが、この値は前年同時期の28%を大幅に上回り、秋の時点での生育状態として、2019作物年度以降最高の滑り出しとなった。

10月のほとんどの期間、米国の南半分の諸州では、平年並みに比べて乾燥した天候が支配的であった。実際に、米国南西部の多くの地域では、10月の降水量が76.2mmから101.6mmといったほとんど無きに等しい程度の降水量に留まった。10月の総降水量が12.7mm未満に留まった観測地点は多く、アラバマ州（バーミンガム、ハンツビル、マッスルショール及びタスカルーサ）、ミシシッピ州（グリーンウッド、ジャクソン、トゥペロ及びヴィクスバーグ）並びにテネシー州（チャタヌガ及びクロスビル）となった。10月29日までに、テキサス州、ルイジアナ州、ミシシッピ州及びアラバマ州の放牧地及び牧

草地の60%以上で「非常に悪い」から「悪い」という評価となっており、既に干ばつの影響を受けていたうえに、11月初めの凍結によっても牧草の生育に支障が生じている。

その一方で、10月末に寒気に先立って、熱帯低気圧による湿潤な天候がテキサス州から五大湖周辺の諸州にかけて広がった。太平洋東部からメキシコに上陸したハリケーン・ノーマ及びハリケーン・オーティスの余波によるものである。これに先立って10月には、二度にわたってメキシコの太平洋沿岸に上陸した熱帯低気圧である熱帯性暴風雨マックス（10月9日メキシコ上陸）及びハリケーン・リディア（10月10日メキシコ上陸）の余波が米国南部のテキサス州南部から大西洋沿岸南部に至る地域に影響を与えている。

太平洋からの熱帯低気圧の余波により、米国に降雨がもたらされた影響で、米国干ばつ監視委員会（the United States Drought Monitor）によれば、10月31日までの4週間に、米国南部の48の州で干ばつの状態にある面積の割合は、40.06%から36.53%に減少した。しかし、米国北部及びテキサス州から中西部の地域にかけて状況が改善しつつあることも、米国南西部で干ばつが進んでいること、及び米国南東部で干ばつが急激に進んでいることによって相殺されている。10月末の時点で、極度の干ばつ（D3）から例外的な干ばつ（D4）の状態にある面積の割合は、ルイジアナ州で88%、ミシシッピ州で77%である。さらに、テネシー州で41%、ニューメキシコ州で37%、アラバマ州で29%、アイオワ州で24%、並びにネブラスカ州及びテキサス州で11%となっている。

10月に降雨に恵まれたものの、大平原地域中部、米国南西部及び米国北西部の放牧地並びに牧草地に干ばつの影響が広がっていることは明らかであり、10月29日の時点で少なくとも全体の半分の面積が「非常に悪い」から「悪い」という評価となっている。州別に見ると、ワシントン州69%、カンザス州55%、ミズーリ州52%、ミネソタ州52%、オレゴン州50%となっている。これとは逆に、10月29日の時点で、全体の面積の半分の地域が「良」から「優」となっており、いくつかを挙げると、フロリダ州50%、ワイオミング州72%を筆頭とするネバダ州から大平原地域北部にかけての7つの州、オハイオ渓谷からニューイングランド地方にかけての9つの州が含まれる。

表1 米国の乾燥インゲンマメ等の生産見通し

作物名	作付面積 (ha)		収穫面積 (ha)		単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2022	2023	2022	2023	2022	2023	2022	2023
ヒヨコマメ	142,900	153,900	138,360	151,030	1.2	1.49	165,920	224,890
インゲンマメ	505,860	479,150	494,940	462,480	2.37	2.2	1,172,400	1,017,180
エンドウ	371,910	382,430	348,840	364,220	1.96	2.14	684,560	779,180
レンズマメ	267,100	220,560	243,620	205,580	1.02	1.26	248,980	259,000

生産量 米国農務省 (USDA)、農業統計委員会、米国農業統計局 (NASS) から、2023年12月8日付けで公表。

米国の2022作物年度及び2023作物年度(推定)の作物別作付面積、収穫面積、単収及び生産量。

データは、入手可能な最新の報告書または前回の報告書の推定データによる、現行年度(2023作物年度)の推定である。

●カナダ：2023年11月18日公表 AAFC Outlook for Principal Field Crops ●

概観

本報告書は、10月時点でのカナダ農業食料省 (AAFC) の2023/24作物年度の生産見通しを更新するものである。大部分の作物について、カナダの作物年度は、8月1日に始まり、7月31日に終わる。トウモロコシ及びダイズについては、作物年度は9月1日から8月31日までである。ロシアのウクライナ侵攻の結果、世界の穀物市場は引き続き通常に比べて不安定な状況にある。

乾燥エンドウ

2023/24作物年度のカナダの生産量は、前年度に比べて34%減少して230万tとなる見込みである。これは、主として単収の低下によるもので、特にカナダ全体のエンドウ生産量の51%を占めるサスカチュワン州で単収が低下した。黄色乾燥エンドウの生産量は、前作物年度に比べて減少して200万tとなる見込みであり、緑色乾燥エンドウ生産量は、25万tまで減少する見込みである。その他の各種銘柄の乾燥エンドウ生産量の合計も、減少して5万5,000tとなる見込みである。期初在庫量が多かったことから、供給量の減少率は前作物年度と比べ26%に留まり、180万tとなる見込みである。輸出量は大幅に減少して190万tとなる見込みである。2023年8月から9月までの時点では、中国及び米国がカナダの輸出先の上位2位までを占めている。供給量が減少したことで、期末在庫量は大幅に減少するものと見込まれている。2023/24作物年度の平均価格は、現物価格が上昇したことから2022/23作物年度に比べて5%上昇して420ドル/tとなる見込みである。

10月中に、サスカチュワン州の黄色乾燥エンドウの生産者価格は5ドル/t低下し、緑色乾燥エンドウの生産者価格は10ドル/t低下した。現時点での作

柄指標によれば、カナダ産第1等級及び第2等級の乾燥エンドウ供給量が供給量全体に占める割合は、前作物年度に比べて高まる見込みである。それにも関わらず、カナダの乾燥エンドウ生産量の大幅な減少により、2023/24作物年度のカナダ産第1等級及び第2等級の乾燥エンドウ供給量は減少する見込みである。2022/23作物年度の同時期には緑色乾燥エンドウの価格が黄色乾燥エンドウの価格を65ドル/t上回っていたが、2023/24作物年度の現時点までのところでは、緑色乾燥エンドウの価格が黄色乾燥エンドウの価格を185ドル/t上回っている。

レンズマメ

2023/24作物年度の生産量は、80万t近く（33%）減少して150万t近くになる見込みであるが、これはカナダ西部で単収が低下したことによるものである。赤色レンズマメの生産量は、前年度に比べて大幅に減少して100万t足らずとなり、大粒緑色レンズマメの生産量は、前年度に比べて増加して40万t近くとなる見込みである。その他のレンズマメ全品種の生産量は、前年度に比べて減少して20万tとなる見込みである。

しかし、期初在庫量が少なかったことから、総供給量は32%減少する見込みである。輸出量は減少して140万tとなる見込みである。現時点では、インド、米国及びEU諸国が輸出市場の上位を占めている。期末在庫量は減少して10万tとなる見込みである。等級分布が平年並みを上回っていることから、一般的に平均価格は、2022/23作物年度の水準に比べて20%上昇して、過去最高記録の980ドル/tとなる見込みである。

10月中にサスカチュワン州の大粒緑色レンズマメの生産者価格は50ドル/t上昇し、赤色レンズマメの生産者価格は60ドル/t低下した。これは主として赤色レンズマメの輸出需要が平年並みを下回ったことによる。前作物年度に比べて、2023/24作物年度は、第1等級及び第2等級のカナダ産レンズマメ総供給量が減少する見込みである。現時点までのところ、大粒緑色レンズマメの価格は、赤色レンズマメの価格を445ドル/t上回っているが、2022/23作物年度には、赤色レンズマメの価格を350ドル/t上回っていた。

乾燥インゲンマメ

2023/24作物年度の生産量は、12%減少して27万7,000tとなる見込みである。このうち7万tがホワイト・ビーンであり、20万7,000tがカラード・ビーンである。オンタリオ州の生産量は、作付面積の減少により減少したが、マニトバ州の生産量は、単収が低下したことにより減少した。アルバータ州では、作付面積の増加及び単収の向上によりカラード・ビーン生産量が増加した。期初在庫量が少なかったことから、総供給量は17%の減少となる見込みである。

輸出量は、前年度に比べて減少する見込みである。8月及び9月のデータによれば、EU諸国及び米国が輸出市場の上位を占めている。期末在庫量は減少する見込みである。北米大陸での総供給量が前年度に比べて減少することから、カナダ産乾燥インゲンマメの平均価格は、前年度と比べて上昇して1,180ドル/tとなる見込みである。

表2 カナダの豆類収穫面積、単収その他

	収穫面積 (1,000ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (1,000t)	輸入量 (1,000t)	総供給量 (1,000t)	輸出量 (1,000t)	国内 需要量 (1,000t)	在庫量 (1,000t)	生産者 価格 (ドル/t)
乾燥エンドウ									
2021-2022	1,505	1.49	2,244	29	2,832	1,912	581	339	590
2022-2023	1,348	2.54	3,423	35	3,797	2,562	737	498	440
2023-2024f	1,204	1.89	2,272	40	2,810	1,900	635	275	420
レンズマメ									
2021-2022	1,675	0.95	1,594	51	2,083	1,602	258	223	970
2022-2023	1,715	1.34	2,301	87	2,610	2,198	266	147	820
2023-2024f	1,463	1.05	1,542	95	1,784	1,400	284	100	980
乾燥インゲンマメ									
2021-2022	162	2.25	364	71	535	324	71	140	1,210
2022-2023	117	2.67	313	70	523	368	75	80	1,165
2023-2024f	119	2.33	277	75	432	320	77	35	1,180
ヒヨコマメ									
2021-2022	88	1.04	91	30	395	176	64	155	975
2022-2023	95	1.35	128	42	325	225	73	27	1,000
2023-2024f	124	1.08	134	45	207	120	72	15	1,060

(a) 収穫年度は8月から7月である。

(b) 輸出入には加工品の量は含まれていない。

(c) 国内総利用量は、食用、工業用、飼料用、種子用及び損耗からなる。

(d) 生産者価格は、すべての品目、等級、市場の平均価格でFOB価格である。

資料：カナダ統計局(STC)及びカナダ農業食料省(AAFC)

f：カナダ農業食料省(AAFC)による予測値である。ただし、2023/24作物年度の収穫面積、単収及び生産量については、カナダ統計局(STC)による予測値である。

ヒヨコマメ

2023/24 作物年度の生産量は、前作物年度に比べて6,000t増加して13万4,000tと推定されている。これは作付面積の増加によるものであるが、単収は低下の見込みである。カブーリ種及びデシ種の両方の生産量が前作物年度に比べて増加する見込みである。しかし、期初在庫量が大幅に少なかったことから、総供給量は36%減少する見込みである。輸出量は、12万tとなる見込みであり、米国及びパキスタンが輸出市場の上位を占めている。総供給量が減少したことにより、期末在庫量は減少する見込みである。カナダ産ヒヨコマメの品質が平年並みを上回る見込みであり、世界的に生産量が減少する見込みであることから、平均価格は、前作物年度に比べて上昇して過去最高記録の1,060ドル/tとなると予測されている。

● オーストラリア：2023年12月5日公表 ABARES Australian crop report ●

概観

2023/24 作物年度のオーストラリアの冬作物の総生産量は、2022/23 作物年度の過去最高記録から減少して、33%減の4,610万tと見込まれており、この値は最近10年間の平均を僅かに下回っている。オーストラリアの冬作物生産量は、『9月時点のオーストラリア作物報告書』(*September 2023 Australian Crop Report*) に比べて僅かながら増加の方向に修正されている。これはオーストラリア南部の地域での生産見通しの改善を反映したもので、南部の状況改善により、ニューサウスウェールズ州、クイーンズランド州及び西オーストラリア州の一部での生産量の減少が埋め合わせられ、増加に転じている。しかし、2023/24 作物年度のオーストラリアの冬作物の単収は、オーストラリア北部の主要生産地域で乾燥状態が続いていることから平年並みを下回る見込みとなっている。

2023/24 作物年度のオーストラリアの冬作物の作付面積は、前作物年度に比べると減少するものと予測されているが、引き続き2,300万haと歴史的に高い値であり、2022/23 作物年度までの10年間の平均を4%上回っている。作付面積の減少は、主にニューサウスウェールズ州及び西オーストラリア州での6%の減少並びにクイーンズランド州での9%の減少によるものである。

表3 オーストラリアの豆類の作付面積及び生産量

作物名	作付面積(1,000ha)			生産量(1,000t)		
	2021-22	2022-23s	2023-24f	2021-22	2022-23s	2023-24f
ヒヨコマメ	615.8	397.5	427.0	1,062.3	541.0	527.7
ファバビーン(ソラマメ)	287.5	305.0	268.1	646.2	635.0	483.7
フィールドビー	192.0	198.0	197.0	261.1	313.8	238.5
レンズマメ	575.2	646.0	675.0	999.5	1,687.3	1,393.0
ルーピン	497.1	535.0	375.1	957.5	1,098.0	524.2

f: ABARESによる予測。

s: ABARESによる推定。

注: 作物年度は、4月1日から3月31日までの12か月間に作付けされた作物を対象としている。首都圏及びオーストラリア北部の数値をオーストラリア全体の生産量に含めるかどうかによって、各表の間に若干の差異が生じる場合がある。作付面積には、収穫に至った面積、途中で飼料用に転用された面積及び収穫を断念した面積が含まれる。

資料: ABARES(オーストラリア農業資源開発局)、ABS(オーストラリア統計局)、Pulse Australia。

表4 オーストラリアの州別生産量

	ニューサウスウェールズ州		ヴィクトリア州		クイーンズランド州		南オーストラリア州		西オーストラリア州		タスマニア州	
	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)
ヒヨコマメ												
2021-22	280.0	504.0	30.0	40.0	293.3	500.8	8.0	11.0	4.5	6.5	0.0	0.0
2022-23s	160.0	192.0	25.0	40.0	200.0	292.0	8.0	10.0	4.5	7.0	0.0	0.0
2023-24f	150.0	165.0	25.0	30.0	240.0	320.0	8.0	8.2	4.0	4.5	0.0	0.0
2022/23 年度までの 5年間の平均	180.6	261.9	32.4	33.7	208.6	264.7	14.8	15.7	8.2	8.0	0.0	0.0
フィールドビー												
2021-22	37.0	45.1	40.0	71.0	0.0	0.0	80.0	85.0	35.0	60.0	0.0	0.0
2022-23s	45.0	47.3	40.0	76.6	0.0	0.0	75.0	120.0	38.0	70.0	0.0	0.0
2023-24f	45.0	50.0	45.0	60.0	0.0	0.0	75.0	86.5	32.0	42.0	0.0	0.0
2022/23 年度までの5 年間の平均	37.0	35.4	62.6	79.3	0.0	0.0	83.4	97.3	40.8	56.8	0.0	0.0
レンズマメ												
2021-22	12.0	16.2	280.0	420.0	1.2	1.3	270.0	540.0	12.0	22.0	0.0	0.0
2022-23s	15.0	15.8	300.0	750.0	0.0	0.0	320.0	900.0	11.0	21.5	0.0	0.0
2023-24f	10.0	15.0	305.0	650.0	0.0	0.0	350.0	715.0	10.0	13.0	0.0	0.0
2022/23 年度までの5 年間の平均	10.4	9.9	254.8	404.7	0.3	0.4	227.9	453.3	13.4	16.9	0.0	0.0
ルーピン												
2021-22	68.0	122.4	38.0	39.0	1.1	1.1	40.0	45.0	350.0	750.0	0.0	0.0
2022-23s	50.0	70.0	40.0	48.0	0.0	0.0	45.0	55.0	400.0	925.0	0.0	0.0
2023-24f	45.0	60.0	40.0	41.0	0.0	0.0	40.0	42.8	250.0	380.0	0.1	0.4
2022/23 年度までの5 年間の平均	60.4	74.4	41.4	39.5	0.5	0.6	45.9	52.6	444.0	694.4	0.1	0.5

f: ABARESによる予測。

s: ABARESによる推定。

注: 作付面積が500ha未満である場合、または生産量が500t未満である場合には、四捨五入により作付面積または生産量の推定値あるいは予測値がゼロと表示される場合がある。作付面積には、収穫に至った面積、途中で飼料用に転用された面積及び収穫を断念した面積が含まれる。

資料: ABARES(オーストラリア農業資源経済局)、ABS(オーストラリア統計局)、Pulse Australia。

表5 オーストラリアの豆類の供給及び利用状況

作物名	2017-18 (1,000t)	2018-19 (1,000t)	2019-20 (1,000t)	2020-21 (1,000t)	2021-22 (1,000t)	2022-23 s (1,000t)
生産量						
ルービン	714	799	591	866	958	1098
フィールドビー	317	160	210	399	261	314
ヒヨコマメ	998	205	235	876	1062	541
見かけ上の国内利用量 a						
ルービン	258	526	376	406	400	290
フィールドビー	189	87	165	275	66	180
ヒヨコマメ b	1	1	1	1	1	1
輸出量						
ルービン	456	273	215	459	557	808
フィールドビー	130	75	48	126	196	134
ヒヨコマメ	724	371	349	879	594	732

a: 生産量に輸入量を加えた値から輸出量を差し引き、さらに在庫量に明らかな変化が認められた場合には、その値を差し引いて算出した値。

b: 見かけ上の国内利用量は、輸出量が生産量を上回った場合には、1.0とする。

s: ABARESによる推定。

注: 生産量、利用量、輸出入量及び在庫量は、市場年度に基づいている。豆類の市場年度は、11月から10月まで。輸出量のデータは、市場年度に基づくものであって、他の資料で公表されている財務年度に基づく輸出量とは一致しない場合がある。500t未満の場合には、ゼロと表示する。オーストラリア統計局の農業データの収集の範囲の変更により、2014/15年度までは推定生産額5,000ドル以上の生産者(EVAO)を対象として生産量を集計していたが、2015/16年度以降は40,000ドル以上のEVAOを対象としている。

資料: ABARES(オーストラリア農業資源経済局)、ABS(オーストラリア統計局)、Pulse Australia。

表6 豆類価格の推移

	2022				2023		
	第1四半期 A\$/t	第2四半期 A\$/t	第3四半期 A\$/t	第4四半期 A\$/t	第1四半期 A\$/t	第2四半期 A\$/t	第3四半期 A\$/t
国内価格: ルービン (クイナナ調べ)	320.9	353.2	319.2	308.3	329.2	356.7	386.9
国内価格: ヒヨコマメ (メルボルン調べ)	550.8	533.9	549.2	532.5	576.5	596.7	691.5
国内価格: フィールドビー (メルボルン調べ)	590.4	653.5	549.6	518.8	548.4	521.8	485.2
輸出価格: ヒヨコマメb	771.4	861.6	902.1	786.1	811.4	769.4	663.9
輸出価格: フィールドビーb	633.0	689.0	712.6	717.9	576.6	629.4	548.8

a: 単位重量当たりの輸出価格は、米ドルで表記された日別価格の平均を、日別為替レートの四半期ごとの平均値に基づいて換算したものである。

b: 単位重量当たりの輸出価格は、その四半期に輸出された穀物の平均価格を反映したものであって、現在の市場価格とは異なる。ここに示した価格は、オーストラリア統計局が報告したオーストラリアからの輸出の単位重量当たりの輸出価格の平均(F.O.B.本船渡し)である。輸出業者による価格の取り決めの時点と、実際に輸出が行われる時点との間には、大きな時間差が生じる場合がある。

注: 第1四半期は1月から3月まで、第2四半期は4月から6月まで、第3四半期は7月から9月まで、第4四半期は10月から12月まで。価格の算出に当たっては、商品サービス税(GST)を除外している。

資料: ABARES(オーストラリア農業資源経済局)、ABS(オーストラリア統計局)、CMEグループ、IGC(国際穀物審議会)、Jumbuk AG、USDA(米国農務省)。